

## 生物物理学 I レポート問題 (佐野担当分：2017 年夏学期)

次の 4 題のうち、1 題を選んでレポートとして提出せよ。(締切：7 月 28 日 (金) 17:00、提出先：物理専攻教務係)

**問題 I** 非平衡統計力学の新しい非平衡関係式である、Fluctuation Theorem や Jarzynski 等式、一般化 Jarzynski 方程式 (Sagawa-Ueda-Jarzynski) などの生物物理学への応用について 2 ページ程度で説明せよ。参考文献として以下をあげる。

参考文献：

(1) C. Jarzynski, Nonequilibrium Equality for Free Energy Differences, *Phys. Rev. Lett.* 78, 2690 (1997).

(2) Liphardt et al., Equilibrium Information from Nonequilibrium Measurements in an Experimental Test of Jarzynski's Equality, *Science*, 296, 1832 (2002).

(3) S. Toyabe, M. Sano, Nonequilibrium Fluctuations in Biological Strands, Machines, and Cells, *J. Phys. Soc. Jpn.* 84, 102001 (2015).

**問題 II** Turing Instability の例として知られる次の方程式の固定点解 ( $u = v = 0$ ) の安定性について論ぜよ。ただし、 $a, b, c, d > 0$  とする。

$$\dot{u} = au - bv - u^3 + D_u \frac{\partial^2 u}{\partial x^2} \quad (1)$$

$$\dot{v} = cu - dv + D_v \frac{\partial^2 v}{\partial x^2} \quad (2)$$

参考文献：

(4) A. Turing, The Chemical Basis of Morphogenesis, *Phil. Trans. R. Soc. Lond. B* 14, vol. 237, no.641 37-72 (1952).

(5) S. Kondo, R. Asai, A reaction-diffusion wave on the skin of the marine angelfish *Pomacanthus*, *Nature*, 376, 765 (1995).

また、必須ではないが、可能ならば上記の方程式を 1 次元または 2 次元でシミュレーションして見ると面白い。

### 問題 III

次の数理モデル (Brusselator) における固定点を求め、安定性解析を実行せよ。また、コントロールパラメタである  $B$  を変えた場合に起こる分岐の種類について述べ、分岐点近傍での縮約を行い、遅い変数に関する方程式である complex coefficient Ginzburg-Landau (CCGL) 方程式を導け。

$$\frac{\partial u}{\partial t} = A + u^2 v - (B + 1)u + D_u \nabla^2 u \quad (3)$$

$$\frac{\partial v}{\partial t} = Bu - u^2 v + D_v \nabla^2 v \quad (4)$$

ここで、 $A, B, D_u, D_v$  は定数である。

参考文献：

(6) Y. Kuramoto; Chemical Oscillations, Waves, and Turbulence, (Dover)

**問題 IV** 講義の中で興味を持った数理生物学の問題があれば、それについて 2 ページ程度で説明せよ。